

会 議 名	第3回MINATOビジョンデザイン編集等支援業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和8年3月23日（月） 午前9時から10時45分まで
開 催 場 所	港区役所915会議室
委 員	〔出席者〕 小松 尚平 委員長（一般社団法人デザインシップ理事） 野上 宏 副委員長（港区企画経営部長） 河井 孝仁 委員（東海大学客員教授） 丸山 素直 委員（東京藝術大学美術学部准教授） 冨永 純 委員（企画経営部区長室長） 〔欠席者〕 なし
事 務 局	相川企画課長、企画課企画担当（桐本、草野、浄土）
会 議 次 第	議 題 1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1） A事業者（約30分間） （2） B事業者（約30分間） 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配 布 資 料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（2事業者分） 資料3 第二次審査における共通質問事項趣旨 資料4 第2回選考委員会議事録概要 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 公募関係資料 参考資料3 事業者提出資料（2事業者分）
会議内容	
委員長	1 開会 ・ 第3回事業候補者選考委員会では、事業候補者からのプレゼンテーションを受け、第二次審査の評価を行い、最終的な事業候補者を選定する。 ・ はじめに、事務局から配付資料の確認及び第二次審査の説明をお願いする。 ・
事務局	2 第二次審査実施概要について (配付資料及び第二次審査の概要について説明) 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施

(A事業者説明 (約30分間))

(A事業者プレゼンテーション・質疑応答)

河井委員

- ・ 港区をどのような「まち」であると捉え、本編、啓発冊子、動画等のデザイン案のどの部分に、そのイメージを反映しているか。

A事業者

- ・ 我々は港区に所在しているメディア企業とも関連が深く、港区は自分たちのまちであると自負している。世間一般的には、ブランドイメージの高い区であるとする。港区であれば、豊かな暮らしが出来るということを、区民の方も区外の方も感じていると思う。
- ・ 本編については、ユニバーサルデザインを最優先にしつつも、港区らしい品位を感じさせるデザインにしている。
- ・ 啓発冊子については、「カルタ」をコンセプトにし、親しみやすいデザインでありながらも、デザイン性やクオリティの高さを感じさせるものとした。
- ・ 港区が持つ多様性・親しみやすさと、デザイン的なクオリティの高さや高級感といったものを、MINATOビジョンに反映できるように配慮した。
- ・ 動画については、港区には「ミナトイク」や「みなトクPAY」といった語感の良いネーミングが多くあり、楽しいことが好きな方も多い地域であるとともに、洗練されたデザイン性や最先端のものが多い地域としてイメージし、作成した。

委員長

- ・ 実際の業務では、検討の過程で、区から示す方向性が変わる可能性があり、今回提出があった試作品とは異なる、あるいは反対の方向性へ切り替えるような要望があった場合にはどの程度まで対応が可能か。
- ・ また、どのような体制や考え方でデザインを再構築していくのかについても、あわせてご説明いただきたい。

A事業者

- ・ 首都圏で20を超える自治体の広報誌の作成や様々な自治体の計画作成を受託しており、行政計画の作成については私どもが一番得意とするところである。
- ・ コンセプトの変更については、これまでの受託業務の中でも多々経験しており、この経験からなる対応力が強みである。
- ・ 行政の硬い情報を、区民にわかりやすいデザインに落とし込むことを何度も経験している。
- ・ 検討過程の中で、変更が生じた場合も、柔軟に対応してきており、安心して任せたい。

丸山委員

- ・ フォントについてはヒラギノを使用しているが、港区に対するどのような想いから選択したものか。また、線を金色にしている理由も教えてほしい。

A事業者

- ・ 表紙については、ゴシックにする考えはなく、行政資料ということもあり、見た目は若干固めにし、メリハリをつけた形にしている。金色の線については、港区のMにも、区が使用しているひらがなの「み」マークにも見えるようにした。

野上委員

- ・ 行政計画のデザイン化の意味や必要性についての考えを伺いたい。

A事業者

- ・ テキストを見やすくすることが一番の主眼になるが、検索性や使いやすさも必

	<p>要になってくる。一方で、計画書の中に将来像なども全て記載する必要があるため、非常に分量が多くもなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ流し込むだけではなく、出来る限り、視認性やアクセスの良さも考慮して、役割を持たせた上でデザイン性との両立が図れるよう、これまでも計画作成に携わってきた。
野上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ MINATOビジョンは、基本構想、基本計画（実施計画）といった2つの冊子を合わせたものであり、将来像や政策、施策など、行政計画に必要な要素を盛り込んでいくものになる。そのため、提案のような階層も複雑となる可能性があり、企画提案として提出されたサンプルのような余白が取れない可能性もある。300 ページに渡る大量の文字量やテキスト量をどのようにデザインに落とし込んでいくのか。
A事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画書はデザインをきれいに見せるものではなく、確実に情報を伝えるものであると考えている。 ・ 伝えることは決して諦めずに、文章や構成について、よりわかりやすいものになるよう、区と一緒に作り上げていきたい。
富永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の意思決定過程の中で、当初の想定よりも早く成果物が求められる場合があり、作業量に年間を通じて波や偏りが出てくる可能性があるが、行政特有の作業スケジュールに対して、どのような調整を行っていくのか。
A事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政特有の作業スケジュールはこれまでも経験してきており、最初に綿密にスケジュールを立て、管理していくことには絶対の自信を持っている。
河井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発冊子について、子どもを起点に見せていくということは伝わるが、高齢者も含め、お話があったような、誰にでも伝わるものとすることができるのか、考えを伺いたい。
A事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに理解できるということは、誰にでも理解できる内容であり、ある意味ユニバーサルデザインであると考えている。 ・ 先日、麻布図書館で開かれたカルタのイベントに参加したが、子どもよりも保護者の方が真剣に参加していたように感じた。子どもから高齢者まで楽しめることが、カルタの魅力である。 ・ 子ども向けという体裁だが、老若男女も外国人も親しんでもらえるような入口として間口の広いものにしたい思いがある。 ・ 祖父母と住んでいる家庭は、子どもと一緒に楽しめる。 ・ 説明が難しい遊びではなく、楽しみながら親しみが持てるものとして、カルタを選択した。 <p>(A事業者退出)</p> <p>(A事業者の採点)</p> <p>(B事業者説明 (約30分間))</p> <p>(B事業者プレゼンテーション・質疑応答)</p>
河井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港区をどのような「まち」と捉え、本編、啓発冊子、動画等のデザイン

B事業者	<p>案のどの部分に、そのイメージを反映しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 媒体ごとにターゲットや目的を考え、紙質、サイズなどをデザインしている。 ・ 本編について、港区には様々な地域特性があり、地域のバランスに配慮すると一つの写真で表すことが難しく、写真ではなくイメージを採用した。輪のデザインは、5つの地区の特性を生かした、様々な世代や国籍の方とのつながりをイメージしている。 ・ 啓発冊子についても、同じ理由でイメージを採用している。Mをゲートに見立てて、多様な世代、国籍の方が未来を覗いている様子を描いている。
河井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストに障害のある方や高齢の方が見当たらないが、何か意図があるのか。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストは今後書き下ろすため、現在のところは車いすの方などについては描いていなかったが、非常に意識している点である。実際の作成の際には、障害のある方や様々な世代、服装などに配慮したものになるようデザインをしていく。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の業務では、検討の過程で、区から示す方向性が変わる可能性があり、今回提出があった試作品とは異なる、あるいは反対の方向性へ切り替えるような要望があった場合にはどの程度まで対応が可能か。 ・ また、どのような体制や考え方でデザインを再構築していくのかについても、あわせてご説明いただきたい。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政ならではの視点があり、こちらのデザイン企画が通らなかったケースもこれまでに多くある。作成の際には、コミュニケーションが大切であり、周知・認知、アクションに繋げるという目的を達成するために、一番良いものがどのようなものなのか、行政の皆さんとともに話し合っていきたい。 ・ 行政側のこだわりもあることは想定している。一方で、デザインの手戻りは難しいため、一定程度進んだ段階で合意形成を図ることは、現実的な制作スケジュールを考える上で重要な視点であり、これまでの受託業務でも大切にしてきた部分である。
丸山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港区ならではのイラストとして、他の地域と差異を付けるために考えていることがあれば教えてほしい。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案している冊子が出来れば、港区ならではのものになるとは考えている。 ・ 港区の区政要覧を作成した経験があるため、地域特性やバランスを大切にしながら作成をすることは意識したいと考えている。 ・ 例えば大使館が約80か所あるといったことなど、港区が持つ数字としての特性は多くあり、このような特性も作成プロセスの中では意識しながら作成を行っていくことになると思う。デザインという見た目の視点だけではなく、このような特性も生かした、内容も伴ったものにしていきたい。 ・ 様々な方が暮らしている中で、まちづくりに興味を持って、担い手として尽力いただけるような方を増やすための冊子として使えればよいと思っている。
野上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回、計画の策定支援とデザインを分けて発注を行うが、このような経験があるか。また、このように業務を分けることについて、お考えをお聞きしたい。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素案の状態から企画・デザインした実績は少数ながら存在する。また、策定支

	<p>援ではないが、ワークショップを伴走しながらビジュアル・プロモーション部分をお手伝いした実績もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画提案が大切だと考える。テキストをデザイン化することには限界がある。300 ページの本編すべてが企画通りに進まないことは重々承知している。一方で、導入部分など、企画提案が生きるページはあると考えているため、初期の段階で打ち合わせをしながら、より良いものになっていくと考えている。
野上委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画はカテゴリーが多く、テキストやグラフ、線表がある。大量のテキスト量やカテゴリーをどのように表現するのか。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> 導入の部分には自由な企画が出来るが、多くの部分は手堅い体裁になると考える。そのような構成においても、十分にわかりやすく表現できると考えている。
富永委員	<ul style="list-style-type: none"> 行政の意思決定過程の中で、当初の想定よりも早く成果物が求められる場合があり、作業量に年間を通じて波や偏りが出てくる可能性があるが、行政特有の作業スケジュールに対して、どのような調整を行っていくのか。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> 会議体がどのように設定されていて、幹部の意見がどのように反映されるのかなど、意思決定の過程については、我々も把握したいと考えている。 本編の編集に入るのは作業後半であり、作業量的には一番多いものと考えているが、役割分担が出来る作業であると考えている。 一方で、企画やプロモーションが必要な概要版については、ある程度計画の骨格が見えてきた段階で、幹部も交えて方向性の議論をしたいと考えている。
河井委員	<ul style="list-style-type: none"> 本編を全て読む人は少ないため、検索性を高めることが重要であると考えているが、何か工夫などはあるか。
B事業者	<ul style="list-style-type: none"> 計画はすべてをビジュアル化する必要はないと考える。本編を手にするのは、行政関係者や議会関係者、団体関係者、担い手の方々であり、デザイン化することでかえってわかりづらくなってしまう部分もあると考える。デザインとしてしっかり伝えるべきところと、計画として正確にわかりやすく伝えるべきところ分けて作成をしていきたい。 <p>(B事業者退出) (B事業者の採点)</p>
委員長	<p>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 議題4「第二次審査結果及び事業候補者の選定について」審議を行う。事務局から、採点結果について説明をお願いする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 二次審査の集計結果を発表する。625点満点中、A事業者が470点、B事業者が485点となった。 一次審査は、A事業者が867点、B事業者が1,027点であった。 本日の二次審査の点数を加算した結果、2,015点満点中、A事業者1,337点、B事業者1,512点となった。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いする。

野上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ A事業者は、子どもに振り切っている部分があり、柔軟性に欠ける印象があった。 ・ B事業者は、こちらの意向をより組んだ受け答えをしていた印象であり、A事業者と比較すると、回答に安心感があったことから、B事業者の点数が高くなった。
富永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ A事業者とB事業者にそこまでの差は無いように感じた。どちらの事業者も実績があり、業務体制についても問題が無いように思えた。提案においても、そこまでの差は感じられなかった。 ・ その中で、唯一差をつけた点は、取組意欲の部分である。A事業者は持ち場について受け答えをしていたが、B事業者は中心となっている方が受け答えをしていた。それぞれの役割や立場を理解して発言をされていた印象があったことから、A事業者の点数を高くした。
丸山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ どちらも実績や経験は問題ないと感じた。 ・ デザイナーの話の中で、A事業者がフォントとしてヒラギノを使用しており、B事業者が使用しているフォントの方がこだわりを感じた。港区には、デザインに詳しい方も多く住んでいるかと思う。 ・ トータルで見たときに、B事業者の方がデザインという意味ではより力があるという印象を受けた。 ・ そのため、B事業者の点数が若干高くなった。
河井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両事業者には全体としてほとんど差はない印象であった。 ・ そのような中で、B事業者の方がメディアの位置づけといったメディアストーリーの点で若干高い評価となった。 ・ 一方で質問に対する回答としては、B事業者の回答がこちらの質問にストレートに答えていない部分があった印象であり、その点は少し点数が低くなった。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ B事業者の受け答えについては私も気になった。特に業務遂行の部分で、中身の政策部分が見えづらい印象を受けた。 ・ 発展性の部分については、それほど差はないように思えた。 ・ 組織や制作の部分で、A事業者の方が良い印象を受けた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5段階評価で3以上の差がある箇所については、講評の中で述べていただいたが、認識に齟齬なしということでよいか。 <p>(修正の意向なし)</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査結果や各委員からの意見を総括し、当委員会としては、B事業者を事業候補者として選定することとするが、よろしいか。 <p>(異議なし)</p>
委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なしのため、B事業者を事業候補者として選定する。 <p>(選定事業者を公表)</p>
	<p>5 その他</p> <p>(事務局から連絡事項を説明)</p>

